

1 ANGLE

改善のポイントと効果

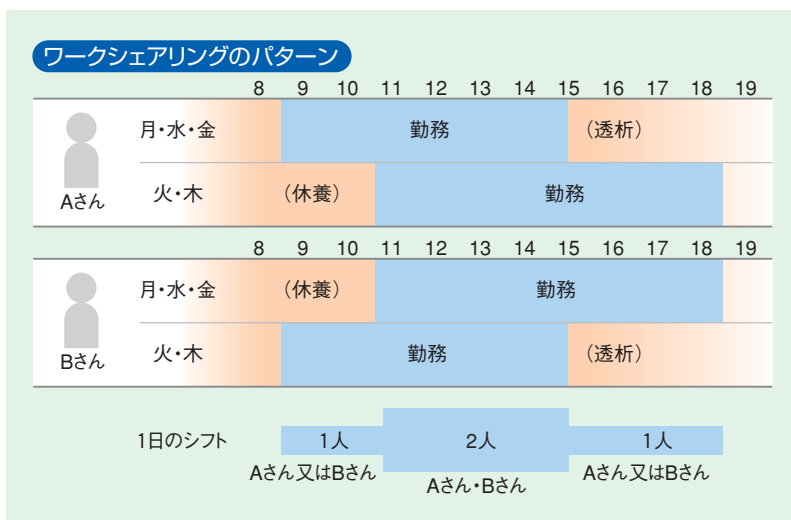
透析治療に配慮した早番・遅番の勤務シフト 業務に支障ないワークシェアリングを実現

人工透析者は隔日ごとに4時間程度の透析治療が必要なため、勤務時間を透析時間に合わせるという考え方が取られた。当初は1週間に3日間の就業体

制を考えていたが、「毎日働くほうが生活リズムがあり、働きがいがある」という社員の希望が多く、シフト制にした。

現在、午前8：30から午後3：00までの早番と、午前10：45から午後6：30までの遅番の勤務体制。透析治療当日は早番、翌日は遅番にすることで、人工透析の通院に要する時間や治療翌日の負担軽減を図っている。

図にあるような2種類の勤務シフトを各人が選択する。1人分の仕事を時差のある2人がワークシェアすることで、業務上の引継ぎがスムーズとなり、加えて、より多くの障害者に働いてもらうことができている。



第三者の目で客観的にアドバイス

相模原クリニック院長 永岡 隆先生



健康面を支える産業医の永岡先生

産業医として、月に1回健康相談を行っています。社員の皆さんは食事のコントロールなど概ね上手に自己管理されていますね。私の役目は、現在の治療のやり方や投薬などについて、第三者の立場からデー

タを見ながらアドバイスをすること。担当の先生には聞きづらいことも、話しやすいのではないかと考えています。

社会的にも生活習慣病に代表される慢性の病気が増えています。自分で体調をコントロールしながら仕事を継続していくことが求められますが、そういった意味でもビジネスサポートは非常に良いモデルですね。こうした会社がどんどん増えれば、内部障害を持つ方たちの励みになるのではないのでしょうか。

専門医が見た腎臓機能障害者就業のポイント

- 人工透析に対する周囲の理解を得ること
- 規則正しく生活することが健康維持に
- 体調の自己コントロールによる長期就業



人工透析の経験がある看護師の常駐と 産業医による月1回の健康相談を実施

腎臓機能障害をもった社員にとって、日常の健康管理と透析治療に配慮した職場環境づくりは欠かせない。そのため、看護師が常駐し、日常生活面での指導をはじめ、健康相談やアドバイスをいつでも受けられる体制をとっている。

また、66床の人工透析施設を持つ相模原クリニックの永岡先生と嘱託提携し、月1回、健康相談日を設けている。腎臓機能障害のある社員一人ひとりの健康状態の把握、きめ細かなアドバイスにより、安心して仕事に取り組めると社員の評価も高い。

さらに、水分管理、制限食、血圧コントロールな

ど自己管理に努めるよう、朝礼や集会などの機会を通じて常に啓発を行っている。



常駐の看護師による健康相談風景



仕事中の体調不良に備えて、血圧計、AED などを配備した健康管理ルームを設置

どんなに自己管理していても、時に体調がすぐれなくなることがある。就業時間中に気分が悪くなった時のために、ベッドを備えた健康管理ルームを設置している。ここには、血圧計、心電図、AED（除細動器）が配備されており、体調不良や不測の事態への対応は万全だ。常駐する看護師による応急

処置も可能なため、腎臓機能障害のある人だけでなく、社員全員にとってもいざという時、安心な環境だ。

さらに、休憩室にはカーテンで仕切られたベッドが用意されており、横になって休息し、リフレッシュしてまた仕事に打ち込むことができる。



カーテンで仕切られたベッド



医療機器を配備した健康管理ルーム

ANGLE

改善のポイントと効果

一人ひとりの健康状態を把握しておくため 独自の健康管理システムを導入

腎臓機能障害者が通院している透析施設での血液検査の数値をはじめ、血圧、内服薬、注射薬などのデータを自己申告により入力し、これらのデータを時系列で蓄積することによって、提携先の相模原クリニックの産業医と看護師が必要に応じてアドバイスできる独自の健康管理システムを導入した。

これにより、産業医が本人の健康状態を把握でき、必要な場合には主治医に相談するよう促す。ただし、これらデ

ータについてはプライバシーに配慮し、産業医と看護師だけが見られる仕組みにしている。この健康管理システムは全国の関係会社オフィスに駐在する腎臓機能障害者にも適用されており、本社以外に勤務する社員の状況を把握し、雇用管理の上でも有効でセーフティネットの役割も果たしている。



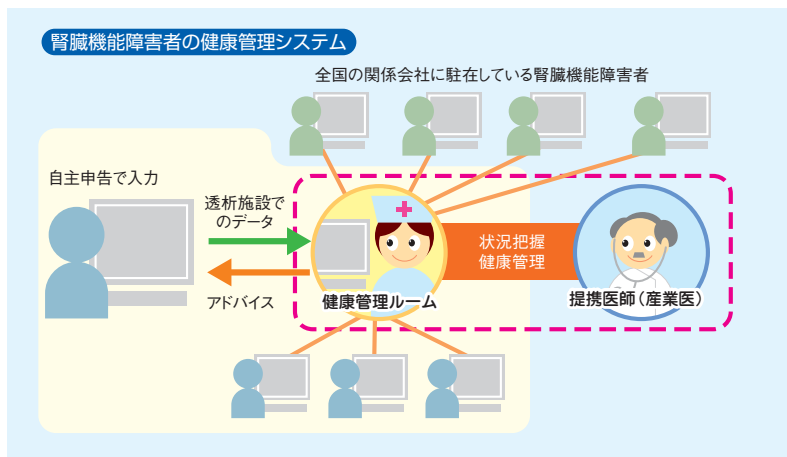
健康管理ルームでのデータ分析



血液検査入力データ



透析前血液検査データ



REPORT ● 私たちの業務 ●

● 発送・物流

スタッフサービスグループ各社の取引先へのダイレクトメールやパンフレットなど印刷物の仕分け、封入、梱包、発送作業を行っている。

内部障害者24名勤務



● 印刷・製本

大型印刷機を用いて、スタッフサービスグループ各社と他社からのマニュアルなどリーフレット、冊子、名刺などのデザイン・印刷・製本業務を請け負っている。

内部障害者5名勤務



コンピュータによる「日報」システムなど 現場の問題点を拾い上げる仕組みづくり

常に快適な職場環境が保たれているか、社長自らが先頭に立って問題点を拾い上げるよう努めている。社員と社長とが1対1でオンラインの「日報」を交わす。会社設立時から続いており、現場や社員を知るための情報交換ツールとして役立っている。こ

れは勤務管理も兼ねたもので、文章入力スキルの向上などIT化に遅れを取らないねらいもある。

またグループウェアの掲示板への書込みや、守秘義務契約を結んだ外部の業者によるカウンセリングなど、風通しの良い環境づくりにも積極的だ。



健康管理についての意識の徹底を図り 機会あるごとに自己啓発をうながす

腎臓機能障害についての知識を全社で共有化する試みを徹底させている。朝礼やミーティングなどの場を利用して、日常生活での水分管理、制限食、血圧コントロールなど、自己管理の大切さを常に意識するよう啓発に努めている。

社員食堂も兼ねている「れすとらんハーモニー」では、カロリー、たんぱく質、塩分、カリウム、リンを表示した減塩メニューを日替わりで提供しており、健康管理に役立っている。

月に1度の全体朝礼では、体調不良者のために椅子席を常に用意。また、透析時間を考慮して、車での

通勤を認めるなど、健康管理面での配慮がなされている。



椅子席が用意されている月初めの全体朝礼

● 私たちの業務 ● REPORT

●給与計算

親会社の給与計算上必要な入退社、異動、人事諸届けなどの人事情報の入出力・配信処理およびグループ各社の給与計算処理を行っている。

内部障害者17名勤務



●PCセットアップ・携帯電話管理

スタッフサービスグループ内で使用しているパソコンのセットアップや携帯電話・PDAの保守管理を行っている。

内部障害者1名勤務

●オフィス駐在

親会社を含むスタッフサービスグループ各社の地方オフィスで、パンフレット管理や勤務表の入力など、オフィス内で発生する事務の補助作業を行っている。

内部障害者119名勤務

